人類光明化・日本国実相顕現の使命にたつ!!

躍進する生長の家社会事業団

SEICHO-NO-IE-SHAKAI-JIGYODAN

創始者谷口雅春先生の願いを正しく受けつぎ、国と社会に貢献する事業を展開しています。

秋号（NO.44）
令和６年11月１日

公益財団法人
生長の家社会事業団
〒186-0003
東京都国立市富士見台２丁目39-1
TEL：042-843-0075　発行人：久保 文剛
FAX：042-843-0076　編集人：佐々木憲彦

祝 新編『生命の實相』全65巻発刊成就!!

《今月拝読の御言葉》

谷口雅春先生

「汝は神の子なり」との免許状をもって歩め

あなたが若し人生の隘路（せまい）に行きつまって苦しんでいられるとしたならば、それは自動車交通規則を知らないか、運転手免状なしに、運転手の資格なしに、出鱈目に「人生の行路」（人の世を行くミチにたとえたもの）を運転していられるからであります。

「運転手免状」とは「汝は神の子なり」と云う「心の中に書かれた証書」であります。そして「自動車交通規則」とは「心の法則」であります。

「神の子」と云う免許状をもって、「心の法則」を知って、「人生の行路」を運転して行ったら衝突の憂いもなく、健康に幸福に豊かに明るい美しい生活を送ることが出来るのであります。

（新装新版『真理』第3巻6～7頁）

谷口雅春先生への報恩感謝の思いを新たに全巻拝読を実践しよう!!

新編『生命の實相』全65巻堂々完成の歴史的偉業を喜び讃え合おう!!

理事長　久保 文剛

令和6年10月25日、この日は、尊師谷口雅春先生が昭和5年3月1日に『生長の家』誌を創刊されて以来の生長の家人類光明化運動の歴史において特筆すべき日となりました。

それは、一時は不当な圧力により地上から消滅するおそれすらあった神授の聖典『生命の實相』が、多くの方々の誠心とご協力によって、平成24年1月1日より、新編『生命の實相』の刊行事業が開始され、約十三年の歳月をかけて遂に全65巻が堂々完成した記念すべき日であるからであります。

生長の家大神より尊師谷口雅春先生に天降った「声字即実相の神示」には、次のとおり重大な意義が示されています。

「わが第一の神殿は既に成れり。名付けて『生命の實相』という。…『生命の實相』を開くだけで病念は去り、煩悶は解決し、人々ただ自己の生命の実相を知り、歓喜踊躍して手の舞い足の踏む所を知らないに至る位はその三番叟に過ぎない。…『生命の實相』を展開けば形の理想世界が成就するのである。…」（光明思想社刊『神示集』より引用）

新編は１日20頁拝読すると
２年で全65巻拝読できます。

大東亜戦争の終戦直後、谷口雅春先生は日本救国・世界救済のため「生長の家社会事業団の設立」の大構想を全国民に発表され、生長の家社会事業団に『生命の實相』等の著作権を設立の基本資産と指定して寄附されました。

ところが、平成20年、突如として日本教文社は、「生長の家社会事業団は、『生命の實相』の印税を寄附されているだけで、著作権者ではない。」との一方的通知を行い、翌年、谷口雅宣総裁の現教団とともに、当法人に対して『生命の實相』等の発行を差し止める訴訟を起こしました。

この不当な圧力に対して、当時の理事長故松下昭氏は敢然と立ち向かい、遂には最高裁での勝訴となったことは第二面に詳述のとおりです。特筆すべき同氏の業績は、この護法のたたかいとともに、新編『生命の實相』発刊に先立ち、同氏が委員長となって「谷口雅春著作編纂委員会」を理事会決議により発足させ、初版以来の『生命の實相』の各種各版について一字一句に至るまで徹底した調査研究を実施されたことです。谷口雅春先生を尊敬する歴史学者の勝岡寛次氏（現在、麗澤大学客員教授）を中心に、谷口雅春先生記念図書資料館に関係者が集まり膨大な書誌学的研究が真摯に行われました。

その目的は著作権法第60条に定められた著作者である谷口雅春先生の人格的利益を永遠にお護りすることにありました。

また、新編『生命の實相』奉讃会を通して、全国の支援者の多くの方々が尊い浄財を献資されました。（令和6年9月末、献資者626名）

全65巻堂々完成の喜びの日を迎え、生長の家大神と神界におわします尊師谷口雅春先生、並びに誠心のご支援を賜りました全国の皆様方に心より感謝御礼申し上げます。

人間は実相の世界に於いて、永遠不滅の存在であるのであり、それを悟ることによって現象界の一切の苦悩の上に超出出来るのである。（新編『生命の實相』第61巻 幸福篇 117頁）

『生命の實相』はこうして護られ新編として甦った

昭和７年発行の『生命の實相』

永遠に読み継がれる
人類の聖典『生命の實相』
新編全 65 巻発刊成就

尊師立教のご決意と聖典『生命の實相』の完成

《『生命の實相』は、尊師・谷口雅春先生が昭和五年に個人の月刊誌として『生長の家』誌を創刊し、そこに発表された数々の〝真理の文章〟を編集しなおし、合本として出版されたものである。それを貫く精神は、まさしく『生長の家』誌「創刊号」（昭和五年三月一日）にそのまま記されている。

如何にせば境遇の桎梏から脱け出し得るか、如何にせば運命を支配し得るか、如何にせば一切の病気を征服し得るか、また、如何にせば貧困の真因を絶滅し得るか、如何にせば家庭苦の悩みより脱し得るか……

ここに明らかに示されているように、この世から、「如何にせば」あらゆる病気、貧困、闘争等をなくさしめることができるか、それが尊師・谷口雅春先生の願いであり、立教の精神そのものであった。その思い一筋に、尊師は九十余年の生涯を生き抜かれた。それは文字通り、**「自分の身体が燃え尽すまで、蝋燭のようにみずからを焼きつつ人類の行くべき道を照射する」**との「創刊号」にて記された通りのご生涯であった。》（『新編『生命の實相』第1巻 編者（谷口雅春著作編纂委員会）はしがき」より）

リニューアルされて新編全65巻刊行なる

こうして出版された『生命の實相』は、昭和七年の発刊以来累計約二千万部が発行され、数多の人々を救いに導きました。多くの著名人にも影響を与え、鳩山一郎元総理大臣や作家の山岡荘八氏もその一人であることは有名です。

そして次々に各種各版（下記年表参照）の『生命の實相』が発行されてきましたが、昭和四十年代に発行された頭注版、愛蔵版を最後に、四十年近くも新版が発行されない状態となりました。この間、読者からは「文字が小さくて読みづらい」「頭注版の注の説明が古い」等の要望が数限りなく寄せられるようになりました。

これら多くの声に応えるべく新編としてリニューアルされ、生長の家社会事業団、谷口雅春先生を学ぶ会、光明思想社の三団体が結束し、約十三年の歳月をかけて全65巻の発刊成就に至りました。

『生命の實相』を護り抜いた生長の家社会事業団の闘い

しかし、ここに至るまでには大きな危機がありました。それは谷口雅宣総裁の現教団が、社会事業団が持つ聖典『生命の實相』、聖経『甘露の法雨』の著作権の剥奪を策した事に対する訴訟とその裁判の闘いです。改めてその歴史の真実を記します。

尊師谷口雅春先生は、大東亜戦争の終戦直後、戦後日本の再建と世界救済の構想実現のために財団法人生長の家社会事業団の設立を企図され、昭和21年1月8日主務官庁より設立許可されるところとなりました。

この設立にあたり谷口雅春先生は、主要な「神示」や聖経『甘露の法雨』等を含む聖典『生命の實相』の著作権を財団法人の基本資産として寄附行為され、主務官庁にも届出が行われました。

爾来七十有余年、生長の家社会事業団は、聖典『生命の實相』の著作権を大切に護持するとともに、谷口雅春先生の宗教的信念を国家社会のために実現する公益事業を実直に積み重ねて来ました。

ところが平成20年、驚くべき事態が発生。これまで社会事業団の許諾のもと『生命の實相』を発行していた日本教文社が、その著作権表示（©マークと著作権者名の表示）を改竄し、密かに主要な印税（著作権使用料）5千万円超を不払いにしていたのです。（日本教文社は不当にも不払印税の時効を主張し、ほとんどの支払いを拒否しました）

ところが問題はそれだけでなく、谷口雅宣総裁教団は、〝生長の家社会事業団は『生命の實相』や聖経『甘露の法雨』の著作権者ではない〟として、**当事業団が許諾して「光明思想社」より発行した『生命の實相』等の発行を差し止める訴訟を起こした**のです。（東京地方裁判所平成21年（ワ）第一七〇七三号事件）

この谷口雅宣総裁の底意には、『古事記と現代の預言』をはじめ三十数点の谷口雅春先生の著書を絶版にしたと同様に、**『生命の實相』、聖経『甘露の法雨』の著作権も生長の家社会事業団から奪い、これらの著書をも事実上の絶版にする意図があった**と識者から論評されています。要するに著作権を、〝出版する権利〟としてではなく、〝出版させない権利〟として行使するためです。

ここに至って生長の家社会事業団は、谷口雅宣総裁教団による著作権剥奪訴訟に対処することにしたのです。それは地裁、高裁、最高裁に至る約5年に亘る闘いでしたが、平成25年5月27日、最高裁判所において当方の勝訴確定判決となりました。これによって『生命の實相』は護られ、私達は今も拝読できる喜びを頂いているのです。この裁判を支えるため、特別献資等によりご支援いただいた全国の皆様に心より感謝申し上げます。

こうして『生命の實相』は新編として甦りました。この喜びをかみしめ、心新たに新編『生命の實相』の全巻拝読に取り組んでまいりましょう。

【『生命の實相』発刊のあゆみ】

- 昭和7年　生命の實相
- 昭和8年　久遠の實在（生命の實相第2巻）
- 昭和10年～14年　革表紙版
- 昭和10年～16年　黒布表紙版（全20巻）
- 昭和11年　豪華大聖典
- 昭和12年　縮刷大聖典（中聖典）
- 昭和13年～14年　ビロード表紙版（全9巻）
- 昭和13年～15年　携帯版叢書：附読誦用『甘露の法雨』（別名、袖珍清楚装）
- 昭和14年～15年　人造羊皮版（全9巻）
- 昭和14年～16年　菊版（全13巻）
- 昭和18年～20年　満洲版
- 昭和24年～28年　新修特製版・普及版（全20巻）
- 昭和28年　地の巻
- 昭和30年　水の巻
- 昭和31年～35年　布装携帯版（全40巻）
- 昭和35年～37年　豪華版（全20巻）
- 昭和37年～42年　頭注版（全40巻）
- 昭和42年～45年　豪華携帯版（全40巻）
- 昭和45年～48年　愛蔵版（全20巻）
- 平成20年　『生命の實相』神道篇（古事記と日本国の世界的使命）
- 平成24年～令和6年　新編（全65巻）

人間の一面は精神的なものであって、如何に医療を加えても、心の中に恐怖や心配や悲しみや、或る人に対する憤りや憎みを捨てないでいる限りに於いては、薬効があらわれないことが屢々あるのである。（新編『生命の實相』第 61 巻 幸福篇 115 頁）

感動の第9回谷口雅春先生報恩全国練成会

永遠の谷口雅春先生の教えが今ここに天降る!!

ここから新生への出発!（喜びあふれる全体記念撮影）

9月14日～16日、ゲスト講師に安東巖先生、高倉俊治先生をお迎えして第9回谷口雅春先生報恩全国練成会が開催され、全国各地から91名の方がご参加くださいました。

安東巖先生はご講話の中で、「ありがとうございますが口癖になるような感謝の生活」「豊かな人生は先祖供養から」「勝利の人生は知識ではなく神の叡智に導かれる人生」とお説きくださいました。又、高倉俊治先生は「素直に信じて明るく行ずる」と〝行〟の大切さを力説されました。そして「天皇国日本の素晴らしさと住吉大神の使命」のご講話では、天皇陛下の御聖徳と愛する日本を命懸けで護り抜いた英霊の方々の姿を感動をもって話されました。

更に個人指導によって多くの方が人生苦から解放され、その喜びを全体座談会において涙ながらに発表されました。まさに、〝真理は人間を解放する〟ことを実証する多くの人生ドラマが生まれた〝神癒の練成会〟となりました。

よろこびの体験談

行じ続けたとき 神癒の人生が現れました

千葉県　杉本眞佐子（73歳）

私が生長の家にふれたのは、今から二十数年前、次男が中学生の頃でした。いろいろな問題行動があって学校に呼び出されることが多く悩んでいた私を、近所に住む三浦洋子さんが千葉の練成会に連れて行ってくださったのがきっかけでした。その頃の私は「こういう世界があるんだ」と思う程度でした。

しかし次男が高校生の時、付き合っていた彼女との間に子供ができました。高校卒業と同時に女の子が産まれ、次男は一人娘である彼女と籍を入れ、嫁の実家に入って義父が営んでいる解体業の仕事を手伝うようになりました。順調に育った長男、長女と違い、〝悩みの種〟となっていた次男がやっと落ち着いたと安心していました。

ところが次男は、二人目の子供が産まれて一年数カ月した頃、嫁の実家を飛び出して来ました。仕事のやり方で義父と合わず、家庭でも居場所がなかったようです。当時の次男の心は荒れに荒れ、自分の父親にも手をあげたり、嫁には聞くに堪えない暴言を吐いたりと、手のつけようがありませんでした。

私は必死の思いで教化部長の安東巖先生に個人指導をお願いしました。安東先生は話をしっかり聞いて下さり、「次男の心は糸がぐるぐる絡まった状態で、それを解くにはしっかり先祖供養をすること、次男を温かく見守ること」等、丁寧にご指導くださり、ホッとした気持ちになれたことを今でも鮮明に覚えています。

私はまず練成会に通い続ける決心をしました。初めは次男の問題を解決したい一心でしたが、一年を過ぎた頃ふと、これは次男の問題ではなく私の問題なんだと思いました。そして次男のことは全て神様にお委せし、私は自分の出来る事をしっかりやろうと思いました。時間を決めて聖経読誦や神想観を行い、出来るだけ笑うようにしていると、不思議と次男の事が気にならなくなりました。又、次男と嫁が最も良い形になるよう日々祈りました。結局八年前に二人は別れることになりましたが、次男はその後、素晴らしい伴侶に恵まれ幸福な家庭を築いています。次男が一人で始めた解体業の仕事も大きく飛躍しています。青年会議所にも所属し社会的にも活躍しています。

私は沢山のお陰をいただいたお返しがしたくて、千葉の練成会のお手伝いを続けてきましたが、教団の教えに疑問を感じるようになり、心の柱を失ったような気持ちでいた時、埼玉の大真理講演会で安東先生のお話を伺い、久しぶりに心が満たされました。その後、井上祥子さんのお世話をいただき今に至っています。

15年前から始めた母親教室も皆様のご協力で継続させていただくことができ、感謝の気持ちで一杯です。

参加者感想文より

神の知恵に導かれた勝利の人生を

神奈川県　神谷　龍（29歳）

練成会に初めて参加して気付いたことは、「本当の自分は神と一体となることで初めてわかる」ということです。

肉体の奥に魂があり、魂の奥に〝神のいのち〟があると伺いました。神のいのちこそ本当の自分なのだと思いました。

もう一点心に残ったことは、人生の勝利には知識だけでは限界があり、神の知恵が大切であるという言葉です。神の知恵は神想観など祈りから生まれるとのことでした。来年三十歳を迎えるにあたり自分が何に懸けていくかを決断する岐路に立っています。練成会に参加する前は自分の頭で色々考えていましたが、神の知恵による決断をしようと思いました。

そのためにも先ず、一日5分からでも、父母ご先祖様への感謝の言葉を唱えて神想観の行を始めたいと思います。

〝心からの笑顔〟で生活します

長野県　堀内典子（64歳）

〝たくさん学ぼう〟〝学んだことを生活の中で生かせるようになろう〟とワクワクした気持ちで参加させていただきました。今回で三回目の参加ですが、生長の家の御教えは「心が温かくなる」「赦される」「希望が持てる」そんな前向きになれる御教えだと実感しています。

「自分ができる限りのことを尽くしたらあとは神様に全托する。言葉が生活を変え、運命を変える」。このことが今までなかなかできなかった私でしたが、今回の練成会で学んだこと、ご指導いただいたことで自分に希望が持てました。

〝笑いの大会〟では思いがけず〝優勝〟という大きなご褒美をいただき本当に感謝しています。この感謝の気持ちを忘れずに〝心からの笑顔〟で生活できるように心掛けたいと思っています。

谷口雅春先生報恩全国練成会のご案内

第1回新生九州練成会（福岡県筑後市）
令和6年11月2日（土）～4日（月・祝）

第10回全国練成会（東京都国立市）
令和7年1月31日（金）～2月2日（日）

神の創造らざるものを創造ったとする傲慢。神は人間の病気を創造らないのに、人間が病気を創造り得たとする傲慢。病気などは無いではないか。病気などは勝手に消えろ。我れはただ神の生活を生活するだけである。（新編『生命の實相』第61巻 幸福篇 79頁）

今年一年のご先祖さまの御護りに、感謝し真心込めて霊牌供養を致しましょう

生長の家では〝大地は神様　根は先祖　幹は両親　子孫は枝葉（えだは）　枝葉に花咲き　よき果（み）を結ぶは　親に孝養　先祖に供養〟（『霊供養入門』より）と教えられますが、その最高の供養となるのが、ご先祖のみたまを聖経『甘露の法雨』の真理の光でお包みする「霊牌供養」です。

本年の結びにあたり、この一年間私たちを御護りくださいましたご先祖さまへ、供養もれのないよう報恩感謝の霊牌を捧げましょう。とりわけ夫のご先祖四家、妻のご先祖四家、この八家が大きな根っことなりますので、八家の先祖代々の霊牌は是非お書きください。必ずや幸福の花が咲き喜びの実がみのることでしょう。

ご先祖様へ感謝を表現しましょう

熊本　司（第7回）

お墓について

聖典『人生を支配する先祖供養』においては、お墓についての私たちの心持ちを、次のように教えて頂いております。

「先ず心が祖先を尊び祖先に感謝する心を起すことが必要である。」（新版『人生を支配する先祖供養』47頁）

又、「墓はよく清掃して供花（くげ）など怠（おこた）らぬがよい。それは愛と尊敬と感謝の表現であるからである」（同書48頁）と教えておられます。さらに、「人生の幸不幸が、「墓石」の形一元論のように説く教えには欠陥がある。…先ず夫婦仲よく、夫の意見を先に立て、夫唱婦和（ふしょうふわ）の心になって万事を処理することが肝要である。」（同書49頁）と説かれています。

これまでは、先祖供養の重要な意義、ご先祖様への感謝の表現としての仏壇や厨子（ず）による先祖供養のあり方を述べてまいりましたが、それぞれの宗派によるお墓の埋葬に対する私たちの心構えも、以上のようにご教示くださっています。

とにかく夫婦調和し合って、毎日の幸せはご先祖様のお護りのお陰であると感謝の心になってお墓を建てること、そしてご先祖様への感謝の表現として墓の清掃や、供花（くげ）など怠らぬようにと教えられております。この短いご文章の中にすべてが込められています。墓相とか墓石の形などにとらわれる必要は無いのです。

ご先祖様へ感謝の聖経読誦と霊牌供養を致しましょう

今年もいよいよ終わろうとしていますが、この一年私たち家族が平安に幸福に過ごすことが出来たのは、ひとえにご先祖様が私たちを護り導いて下さっていたからです。この一年の感謝を込めて、ご先祖様へ「霊牌」を奉納して聖経を読誦し、感謝の表現をしてまいりましょう。

又、各自の事情があって、なかなかお墓にお参りに行かれなかった方も、一年の区切りとして、ご先祖様の墓地や菩提寺を参拝して感謝を表現してまいりましょう。

そして令和七年を、幸福に輝く年としてまいりましょう。

全国練成会における先祖供養祭

読者の皆様から寄せられた〝よろこびの体験〟

○ 現教団の方に社会事業団の機関紙を送ったら大変喜ばれました!!

初秋号を現教団の方々に送りました。さっそく電話が入りました。「びっくりした。身ぶるいした。全て読ませていただいた」「今でもこんな機関紙があるんだ！」「こちら（現教団）は真理がなくて９割が環境」「内容が素晴らしく生きているという気持ちになった」「高倉俊治先生の〝行じ続けたとき神癒の体験は生まれる〟とのご文章を読み、繰り返し行をやればいいんだということがよくわかりました。励みになりました」と皆さんすごく喜ばれました。送り甲斐がありました。

又いつも必ず先祖供養の事が書いてあり、お彼岸の事も初めて知るような内容でした。素晴らしい初秋号を誌友会で輪読させて頂きます。（70代・女性）

感想をお寄せください!!
「躍進する生長の家社会事業団」をお読みいただいた感想や喜びの体験等を、FAX又は郵便でお寄せください。お待ちしています。

聖典『生命の實相』、聖経『甘露の法雨』を永遠に護り抜くために!!
「生長の家社会事業団 創立記念事業特別献資」にご協力ください。（詳しくは同封のチラシをご覧ください）

神様の祝福に包まれた幸福人生を招く
「聖使命奉讃会」（月額一口 1,000 円）にご入会ください。

住吉大神の祝福燦々と降り注ぎ給う
「神癒・聖経供養」祈願
問題解決、神癒の体験続々と！

11月の行事日程

日程	行事	時間	場所
1（金）	月始め感謝祭 聖使命奉讃会感謝奉納祭	10時半～	道場
2（土） 4（月）	第１回谷口雅春先生報恩 新生九州練成会	開会12時50分 閉会15時10分	福岡
4（月）	生長の家の食事の神示祭	11時～	社殿
7（木）	図書資料館一般開館日	11～15時	図書館
10（日）	無病常楽の神示祭	11時～	社殿
17（日）	物故者顕彰慰霊 先祖供養祭	11時～	道場
21（木）	図書資料館一般開館日	11～15時	図書館
22（金）	谷口雅春先生ご生誕報恩感謝祭 『生命の實相』輪読会	11時～ 13時半～	道場 図書館
25（月）	本来生、不滅の神示祭	11時～	社殿
27（水）	終戦後の神示祭	11時～	社殿

12月の行事日程

日程	行事	時間	場所
1（日）	月始め感謝祭 聖使命奉讃会感謝奉納祭	10時半～	道場
5（木）	信仰生活の神示祭 図書資料館一般開館日	11時～ 11～15時	社殿 図書館
7（土）	『真理』勉強会（熊本司講師）	13時半～	図書館
21（土）	物故者顕彰慰霊 先祖供養祭	11時～	道場
22（日）	谷口雅春先生謝恩祭 『生命の實相』輪読会	11時～ 13時半～	社殿 図書館
28（土）	日本の實相顕現の神示祭 君民同治の神示祭	11時～	社殿

「場所」欄の「道場」は全国練成道場、「図書館」は図書資料館、「社殿」は同屋上の龍宮住吉本宮社殿です。どなたでも自由に参加できます。

生長の家社会事業団は、谷口雅春先生の正しい御教えを伝えるあらゆる団体、人々を支援しています。

生長の家社会事業団の公式ホームページのご案内

スマートフォンをかざして下のQRコードを読み取っていただきますと、生長の家社会事業団の公式ホームページが表示されます。

本機関紙のバックナンバー、主催行事・後援行事のご案内、情報公開等を掲載しています。どうぞご覧ください。

拝むという心が失われたときに、万事は価値が失われる。拝んでいる人の心が神の心であり、拝んでいる心がその人から退陣したら、その人の中に神が在（ま）しまさぬことになったのである。（新編『生命の實相』第61巻 幸福篇 88頁）